児童文学作家・今西乃子の「命の授業」

この授業は、児童文学を手掛けている今西乃子が、自ら取材した著書をテーマに、小・中学校等で、展開している「命の授業」です。
実施実績は、小学校、中学校を中心に、専門学校、大学、図書館、少年院、刑務所等、300施設を超えています。

【命の授業パートⅠ】
捨て犬・未来「命のメッセージ」

普遍的道徳テーマ「捨て犬・未来シリーズで伝える「生命尊重」
「捨て犬・未来、命の授業」で伝える自己肯定感とは―?

命を捨てるのも人間、命を守り、慈しむのも人間。
同じ人間ならどちらの自分が好きになれるかー?
この授業は子どもたちに、自己を肯定できる人間になるためにはどうすればいいのか、理想の自分に近づくためにはどんな「心」を持って毎日を過ごせばいいのか、そして人として幸せになるためには何が必要なのか、その気づきを促す自己啓発授業です。
犬という最も子どもたちに馴染みの深い動物を題材にすることで、小学生でも理解できるよう問題提起し、他人の命、自分の命、そして地球の命に至るまでを一緒に考えていきます。

【命の授業パートⅡ】
捨て犬・未来「命の約束」

人間の食物となる産業動物の命について考える。
「いただきます」の本当の意味ってなんだろう―?

命の授業、パートⅠでは、犬の殺処分問題から、捨て犬・未来をテーマに、
「命を捨てるのも人間、命を守り、慈しむのも人間。
同じ人間ならどちらの自分が好きになれるかー?」
という問いかけをすることで、命の大切さを伝えてきました。
そんな中、ある児童の質問を受け、この授業を「命の授業パートⅡ」として企画しました。
「犬や猫は、大切な家族で、その命を大切に守らなくてはならないのに、牛やブタは殺されて食べていますよね? 犬や猫の命は大切で、牛やブタの命は大切じゃないの?」
産業動物の命と、「いただきます」の意味を子どもたちと一緒に考えていきます。

■この授業は、パートⅠを受けた後の児童・生徒が対象です

**誰かを
幸せにすることは、
自分を
幸せにすること**

プロフィール　今西 乃子（いまにし・のりこ）

児童文学作家。（公財）日本動物愛護協会常任理事。児童文学者協会会員。
主に児童書のノンフィクションを手掛ける傍ら、全国の小・中学校などで「命の授業」を展開。その数2024年には300箇所を超える。
捨て犬・未来のお話は、文部科学省検定済の道徳の教科書にも採用されている。
主な著書に「かがやけいのち！ みらいちゃん」「さようなら、捨て犬・未来」「子うしのきんじろう いのちにありがとう」（岩崎書店）他多数。